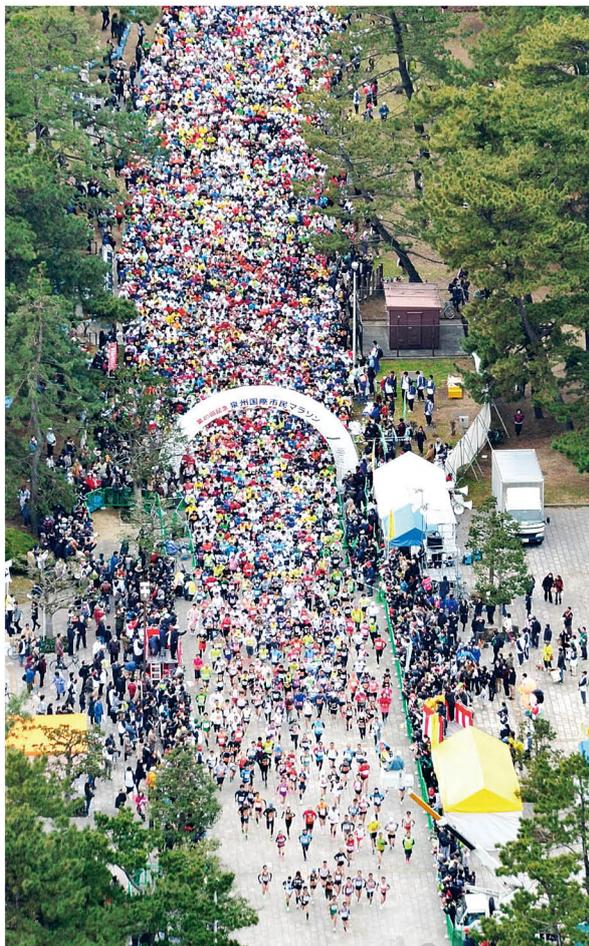


# 泉州国際市民マラソン 第20回大会 2013年(平成25年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 20th CONVENTIONS



天候曇り、気温6℃、湿度35%、北東の風0.2mというマラソン大会では良好のコースコンディションのもと、20回を記念した泉州国際市民マラソンが華々しく開催された。20年の節目を迎え日本の市民マラソンとして有数の成人した大会となった。昨年と同様に募集人数4000人とし、制限時間を5時間としたメモリアルイベントであったが、全国から集まった市民ランナー4768人が9名の招待選手や34名の姉妹・友好都市の外国人選手と一緒に浜寺公園をスタート、りんくう公園高架下のゴールに向かって健脚を競った。完走者は4083人、5時間の制限時間が設けられている大会としての完走率は85.6%の高い数値を示した。

男子優勝は、前半から飛び出した丸林祐樹(トエネック)が2時間22分25秒で昨年に続きV2を達成した。第2位の小寺晃弘(フリーマックス)に5分26秒差をつけた、まさに一人旅の優勝であった。25km付近までは昨年の優勝記録をしのぐ2時

2月17日 日

天候：曇り  
気温：6℃  
参加者数：4768人  
完走者数：4083人  
沿道人数：26万人



間10分台のペースであったが、このコースの名物となった19mの高低差のある《四橋越え》に苦しみ、目標の20分突破はならなかった。「後半の海沿いの寒い風がこたえたが、沿道の応援が後押ししてくれた」とインタビューに答えた。

女子優勝は、4度目のフルマラソンとなった猪野祐貴(ノーリツ)が2時間38分54秒のベストタイムで快走した。一昨年の18回大会で田中千洋に逆転された悔しい思いを払拭する初優勝であった。4連覇がかかった田中は後半持ち前の粘りを見せ追い込んだが及ばなかった。猪野祐貴は大阪マラソン3位の実績があるが、泉州のタフネスなコースで終始トップを走り、4分近い自己記録更新の快挙であった。「スタートからゴールまでの途切れない声援がうれしかった」と初優勝の喜びを語った。

今回は、マラソンレースと平行して、よしもとのお笑いタレントによるリレーマラソン(駅伝6区)が観衆の人気を博し、フィニッシュ会場では親子ランニング大会も行われ、200組の親子が楽しんだ。20周年を記念するイベントとして泉州9市4町の物産展をはじめ、泉州のゆるキャラ16体が大集合の他、大抽選会やじゃんけん大会、どっきり賞など吉本興業のタレントの出演ステージが披露された。会場には漫才盛り上げ隊として多くの芸人が活躍した。

前日のレセプションでは、ホテル・アゴーラリージェンシー堺において、連続出場の完走者への表彰をはじめ、功労者、協力団体、協賛企業などの感謝状贈呈を行い、アースマラソンを成し遂げた間寛平氏の1時間に及ぶ記念講演が式典を盛り上げた。

尚、20周年記念として今回のマラソンを、制作日本ケーブルテレビ連盟近畿支部、J:COM関西、テレビ岸和田及びラジオきしわだの協力によって初めて実況中継が行われた。20年目の歴史的な企画・取り組みであり、いつまでも「記憶に残る大会」となった。

ランナー

Runner



一斉にスタートするランナー



先導白バイに続く先頭集団



めざすは 42km 先のフィニッシュだ



浜寺公園駅前を力走するランナー



後続ランナーとすれ違う丸林選手



写真コンクール  
出展作品：阿児 信夫



写真コンクール 出展作品：安富 予志雄

## 泉州国際市民マラソンに寄せて

堺市長 竹山 修身



泉州国際市民マラソンが20周年を迎えられ、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

「泉州はひとつ」を合言葉にはじめられた本大会は、今や南大阪地域を代表するマラソン大会に発展しました。これもひとえに大勢の運営スタッフや地域ボランティアの皆様方のご尽力、そして何よりも、絶えず沿道から声援を送ってくださる地域住民の皆様方のご支援の賜物であります。

また、市内「浜寺公園」をスタート地点とし、これまでに5万人以上ものランナーが、早春の泉

州路を駆け抜けてこられた歴史は、本市にとっても貴重な財産です。

本市では、だれもが「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を提供し、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまち「スポーツタウン・堺」の実現をめざしています。

今後も地域スポーツの推進をはじめ、様々な施策の展開により、本大会の趣旨である、泉州地域の活性化・国際化に、より一層貢献していく所存です。

結びにあたりまして、本大会の益々の発展と関係者の皆様方のご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



ボランティア  
Volunteer









フィニッシュ会場



2連覇を達成した丸林一斗那大盛一撮影

## 丸林独走で2連覇

泉州マラソン 女子は猪野が初

陸上 第20回泉州国際市民マラソン(17日・堺市浜寺公園 大阪府泉佐野市)で、丸林一斗那(21歳)が2連覇を達成した。女子は猪野祐貴(27歳)が初優勝を挙げた。丸林は「優勝は嬉しいが、苦しいレースだった」と語り、猪野は「初めてのレースで、緊張した」と話した。

のフルマラソンで初の優勝。最初から積極的に前に出て一度もトップを譲らなかった。昨年11月の大阪マラソンで日本選手トップの女子2位に入ったことが自信になったという丸林は、「最後まで粘れた」と語り、自分ベストもより以上更新した。また目標タイムには届かず、「もっとスピードを磨きたい」と語る成長を誓った。

「最後の2時間40分は切れた」と語る丸林は、最後の30分は風と寒さでペースが落ちた。

2013年(平成25年)2月18日付朝刊

## 20回記念大会の取り組み

泉州国際市民マラソン大会が20周年を迎えるにあたり3年前の第17回大会において20回記念大会についての取り組みが必要との報告が事務局よりなされた。これまでも競技部会では、コースの全面的な見直しや、参加選手の募集人数、制限時間などに関する意見がたびたび話し合われた。

平成23年の第19回大会の協議と平行して検討委員会が組織され関連イベントの概要について話し合われた。具体的には、記念サブイベントとして駅伝競走、親子ランニング、タレントによる講演会、記念誌の発行、功労者や協賛企業などの表彰、記念グッズ作成およびDVD作成などがアイデアとして示され、3班の委員会に分かれ具体的な取り組みがなされた。

記録・表彰班では長年にわたり大会運営に尽力された団体・個人及び協賛企業に感謝状を贈呈するほか、この大会に数多く出場(連続)している参加者を表彰した。

集客イベント班では吉本興業のタレントによるリレーマラソン(駅伝)を行った。人気芸人の走りは観衆の人気を博し沿道の観衆に手を振りながらの快走であった。

記念イベント班では当初、市町対抗の駅伝やランニング教室などの素案があったが、200組の親子ランニングを開催し、親子ともが快い汗を流した。

大会前日のレセプションでは、記念式典として連続出場者らの表彰をはじめ、功労者、協力ボランティア団体、協賛企業などへ感謝状の贈呈を行い、記念講演として、アースマラソンを達成したよしもと所属タレントの間寛平氏が講演し、出席者の笑いを誘い聴衆を魅了した。



男子

トーエネック

丸林祐樹

女子

ノーリツ

猪野祐貴



記念式典 Commemorative Ceremony 2月16日(土): 於ホテル・アゴーラリージェンシー堺





泉州9市4町物産展横丁

